

IDC 参加前チェックリスト

チェック項目

日付

- IDC 要項または HP の IDC 概要を確認。 _____
- 不明点、確認事項について確認。 _____
- IDC 参加申し込み書、病歴診断書などの書類を準備。 _____
- 上記書類などを発送もしくは手渡しした。(開催 10 日前迄) _____
- 宿泊を手配し予約、または依頼した。 _____
- IE 開催場所へのアクセス方法、宿泊の手配、タンクの手配。 _____
- IDC 必要最新教材の用意。 _____
- O/Wダイバーコースマニュアル、DVDの復習。 _____
- AO/Wダイバーコースマニュアルの復習。特にロープワーク。 _____
- REDダイバーコースマニュアル、DVDの復習。 _____
- DMダイバーコースマニュアル、DVDの復習。 _____
- エンサイクロペディアを確認しナレッジワークブックの復習 _____
- RED ファイナルエグザムの復習。 _____
- DM ファイナルエグザムの復習。 _____
- PADI インストラクターマニュアルを最新の規準に。 _____
- RDP (テーブル、ホイール、eRDP) の使用方法確認。 _____
- IDCワークブックのナレッジレビューを仕上げる。 _____
- ベスト・オブザ・アンダーシージャーナルを参考にする。 _____
- 20 スキルを DQS レベルで確認。 _____
- RED コース、課題 7 の練習。 _____
- 必要器材の確認。リークチェックなど。 _____
- PADI ダイブマスター又 PADI アシスタントインストラクター資格。又は同等レベルのトレーニング経験を有する事。(他のダイビング教育機関のリーダーシップレベルの認定を受けている) _____
- ナイトダイブ、ディープダイブ、ナビゲーションダイブの経験の証明が出来る事 _____

- 年齢 18 歳以上 _____
- 過去 24 ヶ月以内に EFR (同等資格) の確認。 _____
- 100 ダイブ以上記録されたログ (IE までに必要、IDC は 60 ダイブから) _____
- エントリーレベル (PADI スクーバダイバーを除く) 認定日より 6 ヶ月以上経っている事を確認した。 _____
- 全ランクの C カード両面コピーを用意した。 _____

☆開催日前日までにすべてチェックが入っている事を確認させていただきます。

IDCご参加についてのお願い

重要：すべてのPADIダイバーコースは自習形式になっております。各PADIダイバーマニュアルをご覧になられても、自習がしやすいような構成になっております。またDVDなどもあり自分のペースで修得しやすくなっております。

もちろん、IDCも例外ではありません。IDCは完全自習が参加前条件となります。自習をしておけばIDCのカリキュラム内においての理解度は増えますし、IDC中に出される課題に取り組む時間も出来ます。自習が不十分ですとカリキュラムの内容が十分理解出来ない、IDCが終了できないまたはIDC途中でIDCを打ち切り残りの部分は延期なども考えられます。そうすると、IEも受講不可能になります。また、コースが終了できてもカリキュラム全てのご理解が薄いとIEのご準備にも支障がでます。

ぜひ、皆様にご理解頂き自習を完璧にされて下さい。

IDC準備ガイドライン：PADIダイブマスターまたはリーダーシップレベルの定義として高度なダイビングスキル、ダイビング理論においてインストラクター・レベルの知識、トレーニング活動中のインストラクターのアシスタントの仕方で多大なトレーニングを受けている、任された他のダイバー達の安全のために責任ある役目を担う事、がすでに達成されていることがIDCをご受講して頂く際の最低限の準備になります。また、マスタースクーバ・ダイバー資格があればより最高です。

以上を踏まえて頂いて、IDCご参加前に次のステップを参考にしてご準備されて下さい。

『限定水域、OWでの課題 ウォータースキルの補強』

一般デモンストレーションスキル： DQSレベルにして下さい。特に浮力関係のスキル。

準備完成レベル//OWDコースの全てのスキルデモンストレーションが5点に近いレベルで実施できる。これにはOWDコースのDVDが参考になる。そして、OWDコースの限定水域、OWの達成条件を見ながら、どのように開催すればいいのか、規準を踏まえて想定する。

これをしておくとIDCのどこで役に立つか・・・スキルサーキット、限定水域評価、OW評価での、デモンストレーション、及び、プレゼンがスムーズに出来る。スキルの完成図を習熟することでトラブル対応が適切かつ迅速に対応が出来るようになる。

そのためには・・・

準備ステップ1 //各スキルについて、OWDコースDVDの限定水域トレーニングの予習
オープンウォーター・トレーニングの予習、PADIインストラクター
マニュアルから限定水域、オープンウォーターのスキルの達成条件を確認する。

準備ステップ2 // IDCワークブックよりスキルトラブルリストを確認する。また各スキ
ルを細分化し、そのスキルが完成するまでの動作を一つ一つコマ送りの
分解してトラブルを考える。(別表1参照)

準備ステップ3 //自宅の鏡の前で、BCD、レギュレーターなどを身にまとい、どの様に
スキルデモンストレーションが見えるかスキルをシュミレーションし確認
する。

準備ステップ4 //可能であればプール、海の浅場(2M以内)で実際にスキル練習をする。

AOW/SPワークショップ関係

準備完成レベル//AOWDコースの実施スキル、コース開催内容、の全てを網羅する。特に
コンパスナビゲーション、サーチ&リカバリーのリフトバック、ロープ
ワーク3種類(バウライン、シートベント、ツーハーフヒッチ)

これをしておくとIDCのどこで役に立つか・・・AOW/SPワークショップ、オー
プンウォーターの際にインストラクター役でのプレゼンテーションの準備、
実施がスムーズになる。スペシャルティコース開催時のヒントにもなる。
また、知識開発プレゼンテーションの際に継続教育の価値がより具体的に
表現できるようになる。

そのためには・・・

準備ステップ1 //PADIインストラクター・マニュアルのアドバンスド・オープンウ
ォーターダイバーコースを熟読する。

準備ステップ2 //参考として、ダイビングパラダイスを熟読し、ナビゲーション、ナイト、
ディープ、PPB、アドバンスのCDROMを見る。

準備ステップ3 //ダイブマスターの際に継続教育コースのアシスタントに付く事は規準だ
が再度、可能であればアドバンス、スペシャルティコースのアシスタント
に着いてみる。

レスキューワークショップ関係

準備完成レベル//REDコースの実施スキル、コース開催方法、の全てを網羅する。課題7のデモンストレーションが出来る。

これをしておくとIDCのどこで役に立つか・・・REDワークショップの際にスムーズに課題7のデモンストレーションができる、限定、OWでの課題の際にREDの課題スキルの開催が出来るようになる。

そのためには・・・

準備ステップ1//REDコースのDVDを見て、各練習事項の手順を確認していく。

準備ステップ2//PADIインストラクター・マニュアルのレスキューダイバーコース部分を熟読する。レスキューダイバーマニュアルにも目を通す。

準備ステップ3//可能であればプール、海の足のつかない深さの水面で実際にスキル練習(課題7)をする。もしくは、レスキューコースのアシスタントに付く。

『知識開発の補強』

知識開発プレゼンテーション

準備完成レベル//PADI全ダイバーコースのマニュアルを読破し、各ダイバーコース内容の前後関係に着目し理解しておく。各コースのナレッジレビューの答えもインストラクターマニュアルを参考にして確認しておく。内容の不明瞭な部分はエンサイクロペディアで知識を補う。また、ダイビングパラダイスも参考資料となる。ダイブテーブル、ホイール、eRDPの引き方もマスターしておく。(IDCの中ではRDPの使い方はOPである)

これをしておくとIDCのどこで役に立つか・・・知識開発プレゼンテーションの作成の際に基礎が出来ていれば作成に専念できる。

そのためには・・・

準備ステップ1//各ダイバーコースのビデオを見ておく。

準備ステップ2//各ダイバーコースのマニュアルとインストラクターマニュアルのプレゼ

ンテーションアウトラインとMLGを照らし合わせて確認する。

準備ステップ3//テーブル、ホイールの使い方を完璧にマスターしておく。

インストラクターレベルの知識

準備完成レベル//ナレッジワークブック、OWDコースのクイズ&エグザム、REDコースのファイナルエグザム、DMコースのファイナルエグザムの完成。不明な点はエンサイクロペディを参考にする。

これをしておくとIDCのどこで役に立つか・・・知識開発プレゼンテーションの作成、5科目のクイズにもパスできるようになる。

IDCカリキュラムの理解

準備完成レベル//ベストオブザ・アンダーシージャーナルを参考にしながら、IDCキャンディット・ワークブック内のナレッジレビューの完成。これは、IDC参加前条件でもある。インストラクターマニュアルのどこに何が記述してあるかを確認できる様にインストラクターマニュアルで調べた部分には付箋をつけておく。法律とダイビング、子供とスクーバダイビングを熟読しておく。

これをしておくとIDCのどこで役に立つか・・・自習が出来ていることによりIDC開催中に、実際潜水環境をより理解できるようになる。また、インストラクターマニュアルを引くことが早くなり、規準のクイズの際にも有利になる。

水中コントロール、フォーメーションの補強

準備完成レベル//まずはOWDコースの限定水域、オープンウォーターでの各スキルの達成条件を確認し、規準が満たされる事を確認の上、安全レベル、お客様とインストラクター、アシスタントのフォーメーションを考え、常にお客様を注視できる位置にインストラクターがいるフォーメーション、アシスタントに常に指示が出せるようなフォーメーションを考える事により、講習を実施することが出来るようになる。

次に、AOWコース、REDコースの開催方法にも目を通す。

これをしておくとIDCのどこで役に立つか・・・限定水域プレゼンテーション、オープンウォータープレゼンテーションでのコントロールがとれるようになる。

そのためには・・・

準備ステップ1 //DMマニュアルの第2章、第3章を再度確認する。

準備ステップ2 //インストラクターマニュアルのスキル達成条件を確認し、推奨手順を参考にし、別紙2を参考にフォーメーションをシュミレーションしてみる。

準備ステップ3 //可能であれば実際の講習のアシスタントに着く。

その他の補強

- IDCチェックリストを仕上げる。
- 可能な限り、アシスタント経験、ダイビング経験を増やしておく。
- 器材の特徴を押えておく。パワーインフレーションホースの無いBCDの給排気はどうするとか・・・。マスクはパージバルブがあるか、無いかによってクリア方法が違う。コンタクトレンズの有無もおさえる。オクトパスなのか、AIR IIなのか？
- スキルの開催において、開催時間、開催する距離があるスキルは注意する。

別表 1

スキルトラブルの考え方

ここでは、一つのスキルを例に取り上げ、分解しながらトラブルを分析します。
下記のトラブルの原因は何かで隠しながらお考え下さい。

例：レギュレーターリカバリーとクリア
(組み合わせスキルで、アームスイープ法とブラスト法で仮定します)

スキルステップのコマ送り

1. レギュレーターから大きく息を吸い、レギュレーターを下に向けて口から外す。
2. レギュレーターが口から外れている時には、小さく口からあぶくを出し続ける。
3. 口からあぶくを出し続けながら右肩を傾け、右手を前に出し、右腿、お尻、スクーバタンクの順に手をスイープさせながら、クロールのような形で右手を前に持ってくる。
4. 右腕に掛かっているレギュレーターホースを確認し、セカンドステージを保持する。
5. セカンドステージを口に持っていき、しっかりとくわえる。
6. 息をしっかりと強くセカンドステージにはき、クリアする。
7. 再度、ゆっくりとセカンドステージから空気をすすり上げ、もう一度セカンドステージの中に強く息をはく。
8. 通常の呼吸を再開する。

考えられるトラブルの1例。

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1の注意すべき点。 | レギュレーターを外す際に上に向けてしまい、フローする。 |
| 2の注意すべき点。 | あぶくを出さない。または、断続的に出している。 |
| 3の注意すべき点 | 右肩を傾けない、またはスイープ中に途中で息を止める。 |
| 4の注意すべき点 | ホースがリカバリーできていない。 |
| 5の注意すべき点 | マウスピースをしっかりとくわえていない。 |
| 6の注意すべき点 | ブラストのクリアが弱い。 |
| 7の注意すべき点 | ここで通常の呼吸を再開してしまい、水を飲んでしまう。 |
| 8の注意すべき点 | エグゾーストティからあぶくがプクプクとしか出てこない。 |

上記はあくまでもトラブルの1例であって全てではありません。このように全てのスキルをコマ送りで分解してトラブルを回避する事を考えてください。

スキルフォーメーションレポート

オープンウォーターダイバーコースのオープンウォーターダイブ3を例にとり、スキルフォーメーションを考えます。すでに限定水域は満足に終了したお客様4名とアシスタント1名とあなたの合計6名で海に入ります。ブリーフィングから水中フォーメーションそして、ディブブリーフィングまでの流れを構築します。下記のダイブ3の概要を元に水域におけるスキルの実施方法を完成してください。講習開催水域はあなたをよくご存知の水域の設定で構いませんし、別表3を使用しても構いません。

ダイブ3（フレキシブルスキル含む）

- ・ ブリーフィング
- ・ 器材の準備
- ・ 器材の装着と調整
- ・ プレダイブセーフティーチェック
- ・ エントリー
- ・ 浮力/ウェイトチェック
- ・ （50M直線水面コンパス移動）
- ・ 水深6～9Mへの視標のある自由潜降
- ・ オーラルインフレーションを使つての水底での中性浮力
- ・ 全部に水を入れたマスク・クリア
- ・ （コントロールされた緊急スイミングアセント）
- ・ バディブリージング 静止状態と6～9Mからの浮上（OP）
- ・ 水中ツアー
- ・ 浮上
- ・ （水面でウェイト・システム脱着）
- ・ （水面でスクーバ・ユニット脱着）
- ・ エキジット
- ・ ディブブリーフィングとログブック記入

（例）：どこでブリーフィングを行い、どこで器材セッティングを行うか、フロートをどこに張り、水中でお客様をどうコントロールしてアシスタントをどこに置くか。スキルはどの順番で行い、お客様お一人ずつ行うのか、何人か一緒に行うのか。その時、インストラクターはどこにいるのか、アシスタントはどこにいるのか。ブリーフィングでハンドシグナルをおさえたか。特に該当するスキルのハンドシグナル。

『私が・・・のサインを出したら、・・・のスキルを行います。』

別表 3

講習開催水域マップ